

# 『妻恋道中』『流転』の人気歌手・上原敏

## 没後70年 記念展



父・上原敏の思い出を語る松本明生さん

### 「こわれて戦地で熱唱」「良き家庭人」

## 子息が生き様明かす

「妻恋道中」「流転」いた歌唱で一世を風靡し、「ニューギニア戦線に散った上原敏(1908〜1944)」。彗星のように駆け抜けた戦前の名歌手を回顧する「没後70年記念展」が母校である神田キャンパスで10月17日から26日まで開催され、貴重な写真、レコード、ポスターなど150点が展示された。

18日には、講演と演奏会が開かれた。知られざる上原のエピソードや、戦地からの軍事郵便などが披露され、波乱に富んだ人生と人間味あふれる人柄が紹介された。

秋田県大館市に生まれた上原敏(本名・松本力治)は、幼少の頃から音楽の才能に恵まれた。運動神経にも優れ、専らに入学し経済学部卒業の昭和9年まで野球部で活躍。2度のリーグ優勝を果たしている。

卒業後、製薬会社勤務を経てポピュラーから歌手デビュー、次々とヒットを放った。わずか7年間で200曲以上を残したのち、太平洋戦争の勃発で召集令状が届き、南方を転戦。ニューギニアの密林で消息を断った。36歳。戦死公報では「戦病死」とある。

講演・演奏会では息子松本明生さん(74歳)が「父の記憶はほとんどないが、6年前に亡くなった母(澄子さん)がよく話してくれた」と、次のように語った。

上原は大館から歌手時代まで一貫して良き仲間にあい、家庭においては家族を大切に。華やかな流行歌手の座にありながら質素に暮らし、他のレコード会社の引き

躍。2度のリーグ優勝を果たしている。

卒業後、製薬会社勤務を経てポピュラーから歌手デビュー、次々とヒットを放った。わずか7年間で200曲以上を残したのち、太平洋戦争の勃発で召集令状が届き、南方を転戦。ニューギニアの密林で消息を断った。36歳。戦死公報では「戦病死」とある。

講演・演奏会では息子松本明生さん(74歳)が「父の記憶はほとんどないが、6年前に亡くなった母(澄子さん)がよく話してくれた」と、次のように語った。

上原は大館から歌手時代まで一貫して良き仲間にあい、家庭においては家族を大切に。華やかな流行歌手の座にありながら質素に暮らし、他のレコード会社の引き

「上原敏の歌はどれを聴いても好きになる。彼の生き様とあいまって、全盛時代を知らない人々も魅了している」と没後70年経過しても色あせない上原の魅力を語った。

## 大学院公開講座

### 経済学研究科

大学院公開講座が神田キャンパスで開講されている。今年度は経済学研究科の企画で、同学科の教員が講義を展開する。

「経済学の基礎で読み解く経済問題」をテーマとしたPART1(10月3〜24日、全4回)は延べ333人が受講。4教員が、それぞれ金融、企業、国際経済、国際金融の4分野の基礎について11月7日から始まったPART2は「日本経済の展望」がテーマ(11月28日まで、全4回)。「人口制約とマクロ経済」「金融政策」「財政と社会保障」「企業・産業・技術」の4テーマにスポットを当て、アベノミクス後の日本経済の展望を考察する。

## 専修人の新しい本

民法案内13 事務管理・不当利得・不法行為

著者の師である我妻博士がとられた方針を踏襲して、読者に語りかける形式を取り入れながら、債権各論のうち、事務管理・不当利得・不法行為について最新かつ最高水準の内容を初学者にも分かりやすく説明されている(初心者・初学者はより分かりやすい)第三章「不法行為」から読むとよいだろう。

民法の入門書ではあるが、中級・上級の実力者にも有用な一書である。(勁草書房・本体2000円十税)

昨年亡くなった川井健一橋大学名誉教授の未完の遺作原稿を、本学の良永和隆教授が補筆して完成させた本である。本書は、民法の神様といわれた我妻博士の名作「民法案内」シリーズの巻として、博士の死後40年を経て刊行された読者待望の続刊(財産法事務管理・不当利得・不法行為)である。

川井健著 良永和隆補筆

「戦地でも身も心もポロポロの中で、父は戦友たちを癒やそうと懸命だったのだろう」と、思いをはせた。

新井勝敏文学部教授(近現代史)は、家族を思う切ない気持ちにあふれた上原の戦地からの軍事郵便を紹介した。

松本さんは「妻恋道中」を歌い、上原の歌を歌い継いでいる「上原敏の集い」のメンバーらがヒット曲を合唱した。画家の植木金矢さんは

上原敏の生涯を描いた『アイケ・コブチャタの唄』が絶賛発売中だ。

織田作之助賞作家の大西功さんが、20年間にわたってゆかりの人々への取材を重ね、数奇な運命をたどった上原の姿を追いかけてきた。上原を知りたくなる一書。(秋田魁新報社発行・本体1500円十税)



「桐生から足利(栃木)にかけては強大な領主権力がなく、機屋が自由に商才を発揮できたのが発展の要因。家内工業的な機織りで工程を分業した西陣に対し、桐生では多くの機織り奉公人を抱える大手の機屋が育った」

原料供給から製品販売まで絹織物業の集積地となった桐生も、幕末開港で大打撃を受ける。だ

## 大好評 公開講座「歴史を紐とく」

### 歴史好きを魅了 13年間で2万人超

歴史ファンが心待ちにするのが、毎年秋に開かれるエクステンションセンターの公開講座「歴史を紐とく」。文学部歴史学科の教員が中心となり、歴史の一端を解き明かす趣向が好評だ。参加者は13回目の本講座を含め延べ2万4384人。今回は「モノ」から探る日本の歴史(全6講座)と題し、10月に開催された(5・11・25日、生田キャンパス)。商・経済学部の教員も講師に加わり、厚みを増した陣容で埋もれた歴史のひとコマに光を当てた。

### 絹織物隆盛の歴史を

#### 地方再生の糧に」 商・川村教授

「富岡製糸場と絹織物業」た絹織物。第4回講座「遺産群」という登録名前で川村晃正商学部教授の指定から抜け落ち(商業史)を取り上げたの

は群馬・桐生の絹織物。6月の世界遺産登録決定を引き合いに、往時は京都・西陣を脅かした桐生絹織物の興隆を解説した。

生糸の産地だった桐生に本格的な絹織物の技術を伝えたのは、1730年の西陣大火で地方に流れた職人たち。やがて桐生は西陣から高度な「高級織法」を導入し、桐生産の絹織物は「田舎絹」から脱皮する。1744年には、西陣の有力織屋が連名で京都奉行所に京都での流通制限を願うほど台頭した。



桐生から足利(栃木)にかけては強大な領主権力がなく、機屋が自由に商才を発揮できたのが発展の要因。家内工業的な機織りで工程を分業した西陣に対し、桐生では多くの機織り奉公人を抱える大手の機屋が育った」

原料供給から製品販売まで絹織物業の集積地となった桐生も、幕末開港で大打撃を受ける。だ

湯浅教授は「モノから見た中世の『新』と『古い』をテーマに講演

その、で受講していきまら現代まで幅広く取り上げる——こういった点ではほかの講座にはみられないのではないかと本講座の特徴を解説した。

ポイントには「魅力あるテーマ選び」。2010年の講座「平城京―遷都1300年を記念して」は、6講座平均466人参加という驚異的なヒットを記録した。

受講者は車内広告や新聞の紹介記事などがきっかけで数年来、足を運んでいる人がほとんど。「歴史好きの耳の肥えたりピターに、『次も聴きたい』と知的好奇心をかきたてる企画を常に考えています」

「世界史も知りたい」から「帰りのバス時間を教えて」まで、毎回行っているアンケートに出る要望にできる限り心え、解説のレジュメにも気を配る。「何よりも受講者に支えられている」という原点を忘れてはならない、と肝に銘じています」

21世紀、あらゆる課題の核心を握る情報システムの重要性は、現代人の最も大切なスキルといえる。本書は、1998年に本学教員によって発行された、以来16年にわたって加わっている。(共立出版・本体2800円十税)

編著者(うおた・かつおみ) 専修大学名誉教授。

「桐生から足利(栃木)にかけては強大な領主権力がなく、機屋が自由に商才を発揮できたのが発展の要因。家内工業的な機織りで工程を分業した西陣に対し、桐生では多くの機織り奉公人を抱える大手の機屋が育った」

原料供給から製品販売まで絹織物業の集積地となった桐生も、幕末開港で大打撃を受ける。だ

「魅力あるテーマ選び心がける」

02年から講師を務める文・荒木教授

スタートの2002年は「さまざまな専門を持つ複数の教員が一つのテーマを掘り下げ、古代か

「世界史も知りたい」から「帰りのバス時間を教えて」まで、毎回行っているアンケートに出る要望にできる限り心え、解説のレジュメにも気を配る。「何よりも受講者に支えられている」という原点を忘れてはならない、と肝に銘じています」

21世紀、あらゆる課題の核心を握る情報システムの重要性は、現代人の最も大切なスキルといえる。本書は、1998年に本学教員によって発行された、以来16年にわたって加わっている。(共立出版・本体2800円十税)

編著者(うおた・かつおみ) 専修大学名誉教授。

「世界史も知りたい」から「帰りのバス時間を教えて」まで、毎回行っているアンケートに出る要望にできる限り心え、解説のレジュメにも気を配る。「何よりも受講者に支えられている」という原点を忘れてはならない、と肝に銘じています」

21世紀、あらゆる課題の核心を握る情報システムの重要性は、現代人の最も大切なスキルといえる。本書は、1998年に本学教員によって発行された、以来16年にわたって加わっている。(共立出版・本体2800円十税)

編著者(うおた・かつおみ) 専修大学名誉教授。